マダラハタの大産卵を狙って、
多くのサメがウーロンチャネル
に集まってきた

マダラハタ大産卵の瞬間を突き止めろ！

@パラオ ウーロンチャネル

ULONG CHANNEL PALAU

「マダラハタ大産卵の現場を突き止めました！」この取材は、
デイドリームパラオのガイドからの、そんなメールから始まった。
サメに狙われるリスクを負いながら、無防備な海中に上昇し、暗闇の中で放卵放精を行う。
命を賭けて子孫を残そうとするマダラハタたち。
その瞬間を狙って襲いかかろうとする何匹ものカマストガリザメ、グレーリーフシャーク、レモンシャーク！
どこから飛び出してくるかわからないサメたちへの恐怖と興奮が入り混じった、神秘の営みを追跡した！

Photo&Text=**Takaji Ochi** Special Thanks=**Day Dream Palau** Design=**PanariDesign**

©ocean+α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

ライトに照らされた魚を襲うグレーリーフシャーク

バキバキ！ 骨を噛み砕く不快音が海中に響き渡った。産卵のためにサンゴの陰から飛び出したマダラハタが、カマストガリザメに襲いかかられた瞬間、戦慄のシーンが、暗幕を張ったような暗がりに映し出された。まるで、人が、ゾンビと化した化け物に襲いかかられるホラー映画の衝撃シーンでも見ているかのようだ。その直後、暗闇から自分の水中ハウジングに取り付けたライトめがけて別のサメが突っ込んで来た。一瞬頭を下げてハウジングでガードの姿勢を取る。サメはハウジングをかすめて、2回ほど頭上を旋回し「俺の獲物ではない」と判断したのか、ものすごいスピードで泳ぎ去った。

ここは、パラオのウーロンチャネル。すでにあちこちでマダラハタたちが、噴煙を上げるロケットのように、暗闇の海中に上昇していく。彼らの放精放卵は通常ならダイバーが誰も潜りに来ない時間帯にピークを迎えていた。

この大産卵も凄いのだが、それ以上に我々ダイバーを興奮させるのは、産卵のために海中に飛び出したマダラハタの隙を狙って、襲ってくるサメたちの捕食シーンだ。姿を見せたのは、グレーリーフシャークに、カマストガリザメ、そしてパラオではあまり見ることのない、レモンシャークなど。これらのサメたちが、暗闇の中、狭いチャネル内を不気味に徘徊し、少しでも隙を見せたマダラハタたちに襲いかかる。ときにその惨劇の瞬間は、ダイバーの眼前で繰り広げられることもある。

ホラー映画を観ているような暗がりでの捕食シーン

海底を這うように徘徊するレモンシャーク

暗がりで、マダラハタがカマストガリザメに突如襲われたシーンは衝撃的だった

ダイバーの為にチャネルに設置された水中ライトが、不気味に海を照らし出す

©ocean+α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

狭いチャネルの両サイドに、いくつものライトが設置されている。そのライトに照らされるのを拒むように、お腹を大きくしたメスのマダラハタがあちこちのサンゴの下や岩陰にひっそりと身を隠している。メスを呼び込む場所を勝ち取ったオスも、メスに寄り添うように、ぴったりと身体をくっつけている。時折、縄張りが隣接するオスが接近してくると、真正面から威嚇し、それでも近づいてくるオスには容赦無く攻撃をしかける。

安全な縄張りを確保できなかったオスたちは、チャネル中央の砂地の海底にへばりついて、その瞬間を今か今かと待ち受けている。

ときに、一匹のオスが複数のメスを確保して、愛人の家を渡り歩くように、場所を移動しながら、自分のメスの様子をうかがっている。その様子を見ていると、生存競争に打ち勝てる、強いオスの遺伝子を受け継ぐことは、自然の摂理として至極当然のことなのだろうけど、心情的には「あぶれたオスにも譲ってやればいいのに」と思ってしまう。無防備な砂地に身体をへばり付けて、身を守っている様子を見ると、なんだか、同情したくなってしまうのだ。

一体何百匹、いや、何千匹のマダラハタがこの狭いチャネルに集まっているのか想像もつかない。普段はあまり近寄れないマダラハタたちだが、これから始まる命をかけた営みに、我々ダイバーの接近をまったく意に介さなくなっている。「これじゃあ、何匹でも簡単に捕まえられるな」と邪（よこしま）な考えをしてもおかしく無いくらいに無防備だ。だからこの時期、パラオでのマダラハタは禁漁になっている。子孫を残すために集まるマダラハタたちを取り尽くしてしまう乱獲を防ぐためだ。

マダラハタの大産卵！

お腹を大きくしたメスのマダラハタ

頭上をかすめるように暗がりから飛び出してきたグレーリーフシャーク

縄張りに2匹のメスを確保していた、オス

決死の覚悟で、海中に飛び出して放精放卵を行うペアのマダラハタ

©ocean+α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

海底に身を寄せて、産卵の瞬間を待つマダラハタたちと、その上を徘徊するサメ

チャネルの入り口付近の砂地に群れるオスのマダラハタ集団

昔から、5月～7月頃の新月の大潮時期に、ここウーロンチャネルにマダラハタが大産卵のために、集まってくることは知られていた。しかし、それが実際にどのタイミングで行われるのかまでは、ここ最近までわかってはいなかった。

数年ほど前から、デイドリームパラオでは、このマダラハタたちが、いつ、どの時間帯に産卵を行うのかを突き止めようという話が持ち上がっていたが、実行に移すタイミングをつかめずにいた。その引き金を引いたのは、自分がfacebookで見つけた、ある動画だった。そこには、海底を埋め尽くさんばかりのマダラハタの群れが写しだされ、ときに、サメがアタックをしかけていた。マダラハタのあまりの多さに、衝撃を受けた。しかも、撮影地パラオと英語で書かれていたのだ（後でわかった事だが、その映像はタヒチで撮影されたものだった。なぜ、撮影地パラオとされていたのかは、未だに不明だ）。

いてもたってもいられず、デイドリームの秋野さん、遠藤さんにメールを送った。「マダラハタが凄い集まってる映像見つけたんだけど、これってどこですか？」それに対して、「越智さん、情報が早いですね。その動画、どこにアップ されていたかわかりますか？」との返事。そして、外国人ダイビングサービスが産卵の現場を突き止めているらしいという曖昧な情報。「日本人ダイビングサービスとして、一番にその瞬間をものにしたい」というのがデイドリームスタッフの共通見解だった。

オスのマダラハタ同士の縄張り争い

マダラハタ大集合の映像に驚愕したあの日

海底に水中ライトを設置

チャネル内部に設置した大量の水中ライト

縄張りに他のオスが接近すると口を開けて威嚇する

取材に向けて、リサーチが開始されたのが、2016年6月。取材は7月の産卵の可能性のある新月の大潮の時期と決定された。もし、6月のリサーチで現場を押さえられなかったら、7月のロケもキャンセル。押さえられたら、取材決行。自分にとっては、バハマのドルフィンクルーズの合間での日程。すでにフロリダ2往復のエアチケットと、パラオ往復のチケットを用意しての博打のような取材プランだった。

ULONG CHANNEL PALAU

マダラハタ大産卵の瞬間を突き止めろ！

©ocean+α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

イエローウォールに群れるイレズミフエダイ

☜ブルーコーナーに群れるツノダシ

ULONG PALAU

マダラハタ大産卵の瞬間を突き止めろ！

次々に発見される、パラオでの魚たちの集団産卵行動

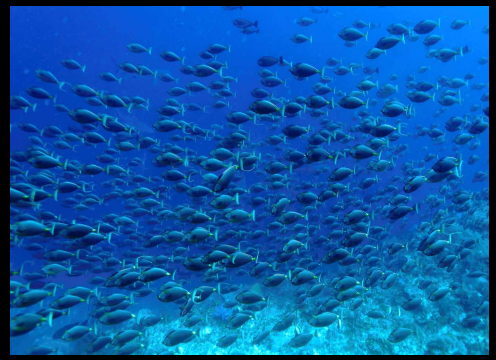
ユーカクチャネルに群れるナンヨウマンタは、産卵ではなく、捕食のために集まってくる

近年、多くの魚たちの集団産卵行動が話題に上がるパラオ。ペリリューコーナーのイレズミフエダイ、バラフエダイ、ロウニンアジ、カスミアジ、ブルーコーナーのツノダシ、ミヤコテングハギ、シャークシティーのバラフエダイ、グラスランドのカンムリブダイ、SE-1のオキフエダイなどなど。そのほとんどが数千匹から、多いものでは、なんと！ 数十万匹とも言われる数の魚たちが、特定の時期、特定の場所に集まって集団産卵を行うことが、この10年の間に次々と明らかにされてきた。

パラオの海のポテンシャルの高さにも驚かされるが、この海で潜るガイドたちのリサーチ力にも脱帽する。ほんの一握りの目撃情報や手がかりから、潮流、産卵前後の魚たちの行動などを検証し、長期間に渡りリサーチし、魚たちの新たな繁殖現場を探り当てる。その執念たるや、まさに、海中の刑事たちのようだ。日本でも、マクロの産卵に関してはリサーチが進んでいるものの、これだけの大物系の集団産卵行動に関してのリサーチが進んでいる海は、他ではあまり聞かない。

そこに行き着くまでの過程には、長時間に及ぶ、“無駄”な時間の蓄積がある。いや、“無駄”というには語弊がある。そうした時間の蓄積によって、他の海では見られないような驚くべきシーンを、ダイバーが確実かつ安全に観ることができるようにしてくれたわけだから。

☜ブルーコーナーや、ニュードロップに群れるミヤコテングハギ



©ocean+α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

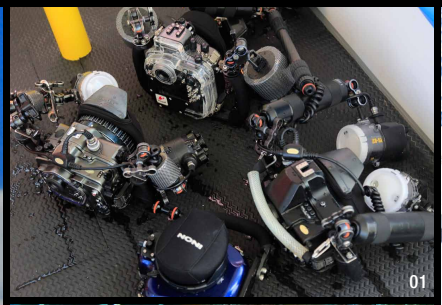
警戒心の強いカマストガリザメが、こちらに向かって突っ込んできた

普段は警戒心の強い
サメたちが、
躊躇することなく
突っ込んで来る。
暗がりから
突如姿を見せる
プレデター。
しかし、彼らも
生きるために
必死なのだ。

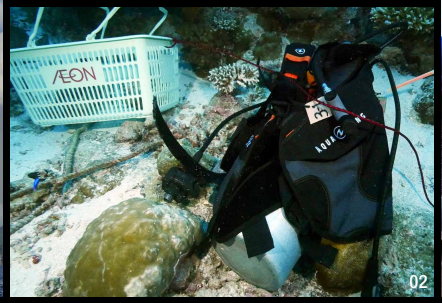
マダラハタ大産卵の
瞬間を突き止めろ！

©ocean+α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

今回のパラオロケでは、晴れやかな空の下で潜ることは一度も無かった



01



02

03

見てみたい!!
撮影してみたい!!

04

01 今回の撮影で活躍したのは、4Kフォト。ここで使用している写真のほとんどが4K動画からの切り取り

02 船に戻らず、撮影を続けられるように、チャネルには交換用のタンクが用意された

03 エントリー前に、どこに水中ライトを設置するか入念に打ち合わせをするガイドたち

04 今回のリサーチ及び、取材の総指揮をとった、片岡祥子さん

話をマダラハタに戻す。賭けに出たリサーチの結果は……「大産卵の現場を押さえました!」その報告に、思わず拳を握りしめて小さくガッツポーズをした。

資料映像を送ってもらった。そこには、夜の暗闇の中、サンゴや岩陰から、煙幕のような精子と卵子を撒き散らしながら急浮上するマダラハタのペア、そのペアをストーキングする数匹のオス。そしてそのハタたちを捕食しようと激しく動き回るレモンシャークやカマストガリザメの姿が!

しかも、その捕食シーンが眼前で見られる可能性がある。

これは、見てみたい!! 撮影してみたい!!

デイドリームのスタッフたちの努力で、大産卵のタイミング、場所を確定できたため、7月の取材が確定した。今度は自分が、暗闇の中で繰り広げられる、この凄いシーンをどう表現するかがテーマとなった。

今回、初めての撮影で、撮影チャンスも限られる。暗闇ということもあり、撮り逃さないようにするために、考えたのが、ライトで照らして4K動画で撮影して、ベストの瞬間を切り取るという方法だ。趣味で押さえるのとは違い、失敗はゆるされない。もしかしたら、ワンチャンスしかないかもしれない。いろいろなところを考慮した結果、この方法を選択した。その成果が、このウエブマガジンに収められている。

次回、撮影にチャレンジする場合には、この方法は取らないかもしれないが、今後生態撮影に関しては、こうした方法で撮影した方がより、生態を表現する上で有効であると感じた取材でもあった。

ULONG PALAU
マダラハタ大産卵の瞬間を突き止めろ!

ローテーションで潜り、産卵直前のマダラハタの様子をチェック。水面休息中のガイドたちは船上で泥のように眠りについていた。

©ocean+α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

「おはようございま～す」と朝一番からテンション高く声をかけて気分を盛り上げてくれる、デイドリームパラオのスタッフのその心遣いがうれしい。ゲストに合わせてベテランから若手まで、すべて日本人ガイドでチーム構成されるのはデイドリームならでは。そして、それを補うように気の利いたパラオ人スタッフが私たちのダイビングをフォローしてくれる。毎日、帰り際のVIP待遇のお見送りは逆にこちらが恐縮してしまうほど丁寧だが、決して悪い気はしない。使ってみて始めて感じる、パラオ随一の居心地の良いダイビングサービスだ。

Special Safari Information

龍馬で狙う「ウーロンスペシャルクルーズ＋カンムリ＋マダラハタ集団産卵！」

マラカル港発着◉2017年5月23日～ 27日／ 2017年6月20日～ 24日

参考≫http://daydream-cruise.com/2016-cruise-15

日帰りサファリトリップで狙う「マダラハタ集団産卵！」

コロール発着◉5月23日／ 6月22日≫サファリでマダラハタ&レモンシャークリサーチ同行ダイブ（産卵する可能性があるので リサーチを兼ねたサファリとなります）

コロール発着◉5月24日／ 6月23日≫マダラハタ集団産卵&レモンシャーク＋カマストガリザメ大攻防

参考≫http://daydream-dive.com/safari-2017

01

02

デイドリームプレゼンツ！ 2017年マダラハタ集団産卵狙いツアー情報！

パラオを代表する、デイドリームの豪華ダイビングクルーズ船「龍馬」

03

04

01 空からみた「龍馬」

02 デイドリームで、マダラハタの大産卵の瞬間を見に行こう！

03 深夜にコロールベースに戻ってくる

05 船上で打ち合わせする、デイドリームのガイド陣

DAY DREAM PALAU

http://daydream-dive.com

マダラハタ大産卵の瞬間を突き止めろ！

ULONG ISLAND PALAU

©ocean+α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます